

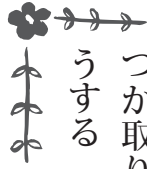


「そうだ、選挙、行こう！」

今夏、盛り上がっているサッカーのワールドカップを観ていると、監督が代わればチームの様子がガラッと変わるのがよく分かります。監督の采配と同様、政治のリーダーが替われば、私たちの生活に大きな変化をもたらします。自分の暮らすまちを良くしたいと思ったら、何らかの形で政治に関わってみる。その第一歩が投票所に行くことです。

館山市では、11月に市長選挙、来年4月には市議会議員選挙が予定されています。市長や議員に対し、批判する市民も多いですが、いずれも市民の投票で選ばれた人達です。身近な自身の代表を選ぶ権利ですから、候補者の実績や思いをよく聞いて、自らの判断で貴重な一票を投じる。投票率が上がることが「新しい風」にも繋がるのではないのでしょうか。

今号では、これまで1期3年間の議員活動の中で感じた市政に対する疑問点と、それに対する私の考えをいくつか取り上げました。題して「館山市の問題。私ならこうする(その1)」(裏面)。ご参考になれば幸いです。



第1回「たてやまアイデアサロン」
(6月2日開催)
ゲストの和田泰一さんの講演、
『僕はこんな風に館山で育った。
そして世界へ羽ばたいた』には
100名を超える皆さんが集まり、
楽しく盛り上がりました。



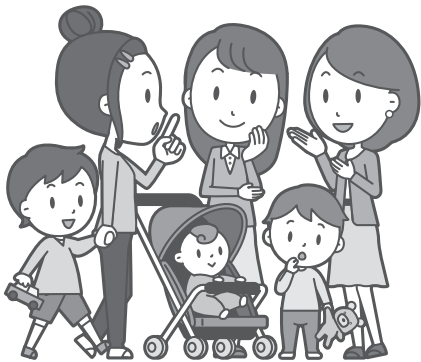
6月議会報告・・・むろあつみの行政一般質問より

3月から2回の会派視察を行い、学んできたことを元に議会質問を行いました。

◎子育て世代包括支援センター (日本版ネウボラ*)

妊娠期からの切れ目なく利用者に寄り添った子育て支援を実現するために、国は市町村に「子育て世代包括支援センター」設置の努力義務を課しています。館山市は、個々の機能はほぼ充足していると主張していますが、切れ目なく包括的な子育て支援のためには、関係各課や関係機関との更なる連携の強化を課題としています。

介護は社会化が進み、ケアプランやケアマネージャーなどの地域で支えていく仕組みができていますが、子育てにも同じように地域全体で支えていくことが望まれています。



*「ネウボラ」はフィンランドで行われている、妊娠期から家族全体のケアを行う妊産婦育児相談所です。利用者中心主義で専門職や支援者が連携し、切れ目ない支援を実現しています。「マイ保健師」が1人100家族を担当し、医療・保健・福祉をワンストップで提供しています。

◎提案募集方式

地方分権改革の流れの中、平成26年度から「提案募集方式」が導入されました。これは、全国一律の基準が地域の実情に合わなくなったり、地方独自の取り組みを行う上で支障となる地域課題を各自自治体が見つけ出して提案することで、全国的な制度改革に繋げようとする画期的な制度です。

4年間で提案の約9割が実現されましたが、提案を行った自治体は全体の1割強に過ぎません。提案を積極的に行っている自治体は、トップや幹部がこの方式の意義を理解し、住民サービスの向上に組織として積極的に取り組んでおり、職員の意識改革にも繋がっています。館山市でもこの方式をよく理解し活用することで、職員が自らの業務の中で感受性豊かに疑問点・課題を発見し改善点を考える意識を持つよう要望しました。

◎「地域商社」事業

地産地消や地産外商による経済活性化に向けて、国は地域商社事業を推進し、地方創生推進交付金等による支援を行っています。

南房総市では、積極的な情報収集により必要な機能を提示して公募で事業を作り上げるなど、行政がしっかり民間をリードしながら、地域の様々な関係者を巻き込む動きをしています。館山市でも手を挙げてくれる人を待つだけでなく、大いに参考にしたい事例です。

館山市一般会計10年間の変化

【歳入】	平成18年度	平成28年度	増減
自主財源	73	84	10.9
市税	59	59	0.1
使用料及び手数料	4	6	2.5
寄附金	0	1	0.6
繰越金	4	10	6.3
その他自主財源	8	9	1.5
依存財源	75	114	39.4
地方交付税	32	40	8.2
国庫支出金	13	29	15.8
県支出金	6	11	5.6
市債	7	20	13.1
その他依存財源	17	13	▲3.2
歳入合計	148億円	198億円	50億円

(決算ベース 億円)

【歳出】	平成18年度	平成28年度	増減
経常的経費	132.5	165.2	32.6
義務的経費計	78.2	90.5	12.3
人件費	36.5	31.2	▲5.2
扶助費	21.9	40.9	19.1
公債費	19.9	18.4	▲1.6
物件費	16.6	24.7	8.1
補助費等	16.8	20.1	3.3
その他経常的経費	20.9	29.9	9.1
投資的経費	11.2	25.4	14.2
歳出合計	144億円	191億円	47億円

	平成18年度末	平成28年度末	増減
人口	50,744人	47,642人	▲3,102人
経常収支比率	96.8%	98.2%	+1.4

*人口は住民基本台帳、翌年4月1日現在

館山市の問題。私ならこうする！(その1)

1. 財政は本当に再建されたのか？

【市長答弁】

『財政調整基金残高が、平成19年末の130万円から29年度末には14億円になり、行財政改革を断行した結果、一定の財政再建を果たすことができた。』(平成30年6月議会)

【解説】

市の一般会計・歳入は、この10年間で約50億円増えているが、これは国の方針転換により地方交付税や国・県の支出金が大幅に増えていることが主な要因である。

歳出面では、人件費が5億円減の一方、物件費が8億円増となっている。これは、一番手をつけやすい正規職員の削減を進める反面、非常勤職員数や委託料が大きく増えているためであり、行財政改革の評価は難しい。

さらにこの間、財政の硬直性を示す経常収支比率が上昇(悪化)し、平成28年度は千葉県下37市中ワースト2位となった。執行部が常に「お金がない」を繰り返していることから、財政に余裕がないことは明らかである。

この先、学校給食センター移転改築や清掃センター大規模改修などの大型事業が控えているが、これまでと同じような財政運営の手法では、将来展望は描けないのではないかと懸念する。

【むろあつみの提案】

- ・ 長期的視野により、歳出をゼロベースで見直す(優先順位でメリハリ)
- ・ 将来の歳入確保に向けた先行投資
- ・ ふるさと納税の拡大(民間の視点で)



2. 学校再編 / 三中問題は？

【市長答弁】

『第三中学校の耐震化対策について、有利な財源を確保した上で校舎を建て替えることに取り組んでいきます。』(平成30年3・6月議会)

【解説】

第三中学校の耐震化対策について、診断結果(Is値)は平成11年の1・27から平成26年に0・33に修正され、耐震化が必要との認識が示されてすでに約4年が経過している。今年度予算で建替え(約30億円)を前提とした基本設計料3,000万円が計上された。

一方、将来的な学校施設の適正規模について検討する「学校再編調査検討委員会」が設置されたが、平成32年度末の結論次第では、三中建替えに無駄が生じる懸念がある。

【むろあつみの提案】

- 生徒の安全確保を最優先し、財政の無駄を避けるため次の順序で行う。
- ① 三中が危険な状態なのであればすぐにも一時閉鎖する。
 - ② 20年後の生徒数を踏まえた学校再編計画を策定する。
 - ③ (必要であれば) 三中建替えに着手。
- * 中学生数が、昭和50年代の約2,500人から現在1,051人、20年後は742人と予測される中、4校体制を維持していけるのか。現在の三中が必要なのか、規模はどの程度になるのか、など判断してから建替えに着手すべき。

むろあつみ後援会 からのお知らせ

*本誌をお読みになり、「いいね!」と思われた方は、応援メッセージを頂けると励みになります。FAX、メール、郵送、事務所へ持参、いずれでも大歓迎です。

*市政報告書のバックナンバーをご入用の方は、お気軽にご連絡ください。

むろあつみ後援会
muroatsumi@gmail.com →
FAX:29-5333



ご意見・ご感想・応援メッセージなどお待ちしております

ふりがな	ふりがな
お名前	〒294- 館山市 ご住所
電話	FAX
Email	
むろあつみ後援会	入会希望 / 未定・入会しない / 入会済み
(メッセージ)	